

「校長たより」にアクセスいただいた皆様

「校長たより」にアクセスしていただき、ありがとうございます。今回は、次の4つを掲載いたしました。

①きらっと光る子どもたちの生の声

○大地の芸術祭を満喫

②キラッと輝くエピソード

○打てば響く子どもたち②～9月の全校朝会から～

○街がきれいになることは、やっぱりうれしい～9/20(金) 中学部クリーン活動から～

③本校の教育活動

○自分で気付いて、次の行動に移るための支援～中学部缶バッジ班での工夫～

○連絡帳の改良～中学部1年 生徒一人一人に必要な力を付けるために～

○子どもたちを指導する私たちこそ、徹底して実践を

○子どもたちの気持ちが知りたい～同世代間交流には、どんな成果があるのか～

④お耳を拝借

○9月の交流コーナー ○書籍の紹介

お読みいただき、本校の教育活動にご理解いただくとともに、ご指導ご助言いただきますようよろしくお願い申し上げます。

校長 上松 武



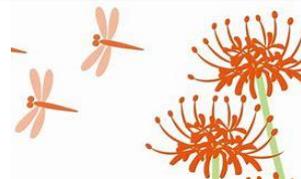
令和6年10月9日

チームふれあい 27人の先生方へ

「なかよく たのしく たくましく」生きる

子どもの育成を目指して⑬ -1009 校長たより-

～自分のできることで、まわりの人を笑顔にしよう！幸せにしよう！～



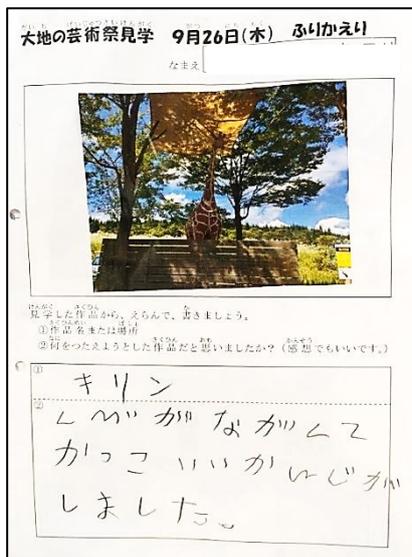
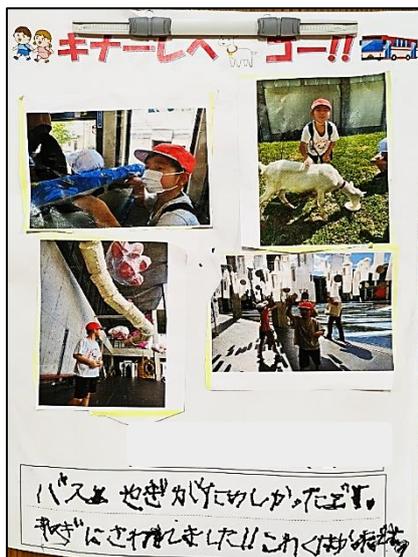
上松 武

1 きらっと光る子どもたちの生の声

○大地の芸術祭を満喫

～ 小学部は9/6(金)にキナーレへ、

中学部は9/26(木)にナカゴグリーンパークや奴奈川キャンパスへ ～



・第9回の大地の芸術祭が、11月10日までの会期で開催中です。市内の子どもたちにとっては、「芸術」に触れる絶好の機会です。

・今回は作家の中里繪魯州さんから、ナカゴグリーンパークに展示されているフラッグを十日町小4年生と共同で製作する機会を1学期にいただきました。鑑賞当日は、「自分のつくったフ

ラッグはどれかな?!」と探した子どもがいたのではないかと思います。

・振り返りシートが廊下に掲示されていました。どのシートも一文字一文字を力強く、

丁寧に一生懸命書かれていました。一人一人のシートを読んで、自分の感性をフル稼働させながら、芸術を肌で感じてきたことが伺えました。

2 きらっと輝くエピソード

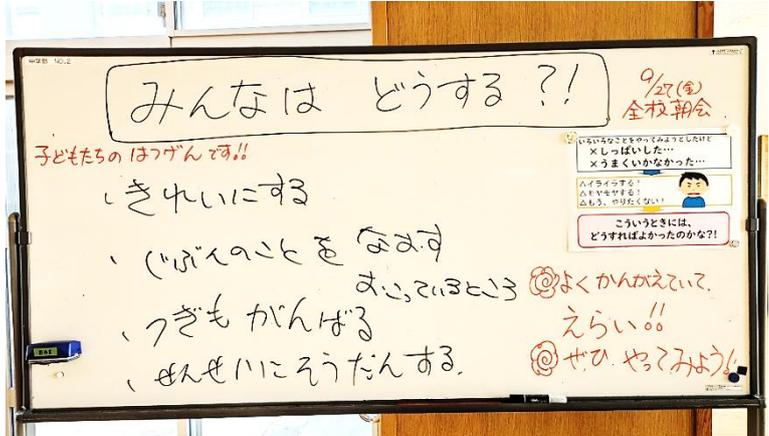
○打てば響く子どもたち② ～ 9月の全校朝会から ～

いろいろなことをやってみようとしたけど
×しっぱいした…
×うまくいかなかった…

△イライラする！
△モヤモヤする！
△もう、やりたくない！



こういうときには、
どうすればよかったのかな？！



- ・ 9月の全校朝会でスライドにあるように、うまくいかなかったらどうするかと子どもたちに質問しました。
- ・ 数名の子どもたちが自分なりの対応方法を答えてくれました。ホワイトボードに記録し、ふれあい広場に掲示してあります。いつでも見れるようにすることで忘れずに、いざという時に対応できるようになってほしいと思っています。
- ・ 「どうするの?」「どうしてそう思うの?」などの質問に、よく考えて自分の考えを発言できる子どもたちが多くなってきたように感じます。やっぱり、打てば響く子どもたちです！

○街がきれいになることは、やっぱりうれしい ～9/20(金) 中学部クリーン活動から～



- ・ 今年度、中学部では商店街や公共施設の周辺の清掃活動を月に1回実施しています。
- ・ 2学期初めての活動を9月20日(金)に行われました。猛暑の中、たくさんのゴミが入った袋をかつぎながら、真っ赤な顔で生徒たちは帰ってきました。でも、一人一人の表情には清々しさを感じました。
- ・ 活動の最中には、地域の方と挨拶を交わす場面があったり、感謝の言葉や労いの言葉を掛けてくれる方がいたようです。生徒たちにとって、

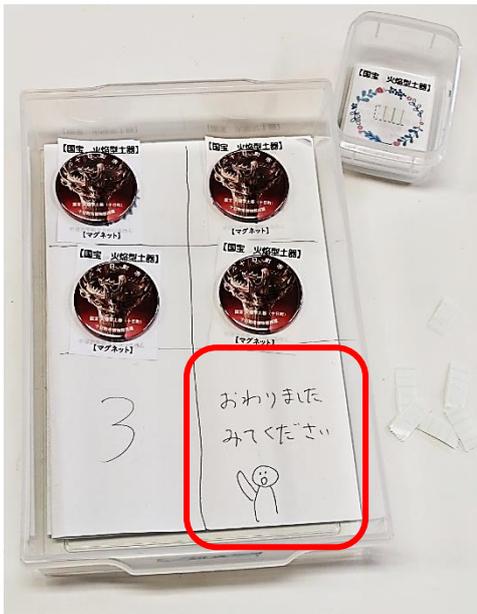
これほど嬉しい言葉掛けはないと思います。

- ・ このような関わりを通して、自分に自信を感じることができると思います。生徒たちの活動は、「この街のために、この街に住んでいる人のために」やっていることですが、「実は自分自身のために」やっていることでもあると担当の先生は話していました。
- ・ 「きれいになって嬉しい」「苦労をねぎらってもらえて嬉しい」「感謝されて嬉しい」、この体験は、生徒たちがこれからの人生を生き抜いていくために必要不可欠な経験値だと考えます。とても大切な学習をしています。

3 本校の教育活動

(1) 授業改善

○自分で気付いて、次の行動に移るための支援 ～中学部缶バッジ班での工夫～



- ・缶バッジ班では、バッジの組み立てや袋に詰める作業など完成までいくつかの工程があり、その一つ一つを生徒が担当しています。
- ・担当する工程の「終わり」を自分で判断し、次の行動に自分から移ることができるようになるために、左の写真のようなちょっとした『きっかけ』を仕組んでいました。
- ・このように「おわりました。みてください」のイラストと文字が次の行動へ移る『きっかけ』として定着すれば、いろいろな場面で同じように活用できます。
- ・そばに支援者がいなくとも、自分で判断して行動することができます。このことは、将来に向けてとても大きな力となります。
- ・ちょっとした支援、されど欠かせない支援です。

○連絡帳の改良 ～中学部1年生 生徒一人一人に必要な力を付けるために～

- ・中学部1年生では、2学期から連絡帳の様式を変更したそうです。一日の振り返りでは決まって「〇〇をしました。楽しかったです」と感想を書いていました。
- ・担任の先生方は、「〇〇をしてみて、どんな気持ちだったか」を表現する力を付けるようにしたいと思い、従来の様式を写真のように変更することにしました。そして、ひと言感想を書く時にはしっかりと時間を確保し、やりとりを通していろいろな感情をことばで表し、それを文字で表現するように指導をしています。
- ・ちょっとした見直しかもしれませんが、生徒にこんな力を付けたいという強い思いがこもった改良だと嬉しく思いました。

()月()日()曜日	天気()
1 朝の会	今日のふりかえり
2 朝体育	[を、がんばった・が、たのしかった]
3 個別学習	一言感想
4 職業基礎	
5 音楽ステージ練習	
連絡帳	学校の連絡

(2) 業務改善

○子どもたちに指導する私たちこそ、徹底して実践を

- ・みなさん、人に頼みごとをするとき、「お願いします」と言っていますか。
- ・みなさん、分からないことや、どうするか迷ったとき、「分かりません。教えてくださいませんか」と言っていますか。
- ・みなさん、していただいたときに、「ありがとうございます」と言っていますか。
- ・私はまだまだです。日々、精進です。
- ・逆に言われて気付いたことがあります。言われると「よし、わかった。やるよ」「こちらこそ、この前はありがとう」などと優しい気持ちや嬉しい気持ちになります。そして、仕事がスムーズに進みます。
- ・このようなひと言があるだけで、何事も円滑に進んでいくと思いませんか。業務

改善につながると思いませんか。

- ・そして、子どもたちに指導する前に、**真摯に我が身を振り返る**ことをしてみませんか。

(3) 認知度改善

○子どもたちの気持ちが知りたい ～同世代間交流には、どんな成果があるのか～



- ・今年度から新しい取組として「同世代間交流」を始めました。
- ・当校は十日町小学校と日常的に交流及び共同学習を、一年を通じて計画的に取り組んでいます。当校の教育の根幹である「共生の理念」を具体的に進める大事な教育活動です。
- ・十日町小学校と同じように交流及び共同学習を進められないかもしれませんが、市内の小中学校とも「共生の理念」に基づく交流及び共同学習を行い、障がいのある子どもとかかわり、障がいのある子どものこと

を知ることを目的として、この「同世代間交流」を進めているところです。

- ・これまでに、東小学校4年生と水沢小学校5年生と実施しました。やってみてどうだったのか、子どもたちの気持ちが知りたいと強く思っています。
- ・ちょっとずつ、ちょっとずつ、いい交流活動にしていきたいと考えています。

3 お耳を拝借!!

(1) 9月の交流掲示コーナー



- ・この掲示で交流活動を振り返ると、様々な活動に取り組んだことが分かります。
- ・大地の芸術祭や親善陸上競技大会、新潟市への社会科見学、ふれあいフェスティバルに向けた活動など。
- ・昼休みの自由交流も、変わらずに行われています。
- ・一つ一つが、両校の子どもたちの心の耕しになっていますね。

(2) 書籍の紹介

「優しい人」の科学 和田秀樹著 クロスメディアパブリッシング

あなたは、自分のことを「優しい人」だと思いますか？

こう質問されて、「はい」と即答できる人は、それほど多くないはず。ほとんどの人が、「人には優しくありたい」と思っている、日ごろの言動を冷静に振り返ってみると、意外と優しくない自分に気付くのではないのでしょうか。



人に優しくする際には、様々な心理や感情が働いています。相手に対する「思いやり」や「好意」の気持ちだけでなく、「打算」や「自己防衛」といった損得勘定が働いていることもあります。相手に嫌われたくないと思って、表面的な言葉で取り繕う優しさもあれば、嫌われることを覚悟で進言する優しさもあります。

価値観や考え方が多様化した現代社会では、何が本当の優しさなのか、ハッキリと明確には分からないような状況になっています。人に優しくするというのは、意外と複雑で、思い通りにいかないものです。人に優しくすると、自分

の気持ちも良くなることで、脳内にセロトニンやオキシトシン、ドーパミンなどの神経伝達物質が分泌されて、心身にいい影響が生まれることが科学的に明らかになっていますが、毎日の生活にも様々な好循環をもたらしてくれます。しかし、私たちの生活には、人に優しくなれない要素がたくさんあります。

どうしても自分のことだけを優先して考えるようになり、周囲の人を虜のような精神的なゆとりを見失いがちです。こんな時代だからこそ、「優しさとは何か」を考えることで、その意味と意義を改めて見つめ直す必要があると感じています。

人にやさしくできれば、人からも優しくしてもらえます。優しい人に囲まれると、たくさんのいいことがあります。たくさんのいいことがあると、人生がうまく回り始めます。人生がうまく回り始めれば、もっと人に優しくすることができます。この本をお読みいただいて、毎日を明るい気持ちで、機嫌よく、前向きに過ごすためのヒントを見つけてほしいと思います。

(CROSSMEDIA PUBLISHING ホームページより引用)